



## 一杯の給食キャンペーン



### 空っぽのカップが象徴するもの:

- 飢餓
- 栄養失調や病気
- お腹のすいた家族
- 学校へ行けない子供たち
- 衰弱した地域社会

### 食べ物が入ったカップが象徴するもの:

- 健康
- 教育
- 希望
- 生産的な家庭
- しっかりとした地域社会

赤いカップは WFP が直面している課題やぎりぎりの生活をしている人々が日々直面している問題を象徴しています。

一杯の給食キャンペーンは、赤いカップをシンボルとして用いることで、世界から飢餓をなくすという使命にできるだけ多くの人々に参加してもらうことと、WFP が飢餓問題解決のために行っている活動に関心を持ってもらうことを目的としています。

ではなぜ赤いカップなのでしょう？プラスチックカップは WFP の学校給食プログラムでおかゆなどを入れる容器として広く使われています。WFP 事務局長ジョゼット・シーランは、就任後間もなく“リリー”という名前が底に刻まれた赤いカップを手に入れました。（このカップはリリーちゃんが新しいカップをもらった際に不要になったものでした。）シーラン事務局長は、この赤いカップが、「わずかな食糧が子供の人生を大きく変える」ということを象徴する強力なイメージになると考え、以来どこへ行く時もこの赤いカップを持ち歩いています。

開発途上国では約 **5,900 万人** の小学生が、空腹の状態ですべての学校へ通っています。このうち、2,300 万人は 45 のアフリカ諸国で暮らしています。十分な食事をしていない多くの子どもたちは空腹のあまり、学習することができません。そしてこれが家族、地域社会、そして国全体の貧困の原因となるのです。

WFP が学校給食を提供することで、貧しい家庭の子供たち、特に女の子が学校に通うようになります。このため、給食が配給される学校では出席率が高くなっています。

WFP は 70 カ国でおよそ 2,000 万人の子供たち（うち半数は女の子）に給食を配給しています。

過去 **40 年間** で 28 カ国が WFP の学校給食支援を「卒業」し、自分たちの力で学校給食を実施する、あるいは WFP へお金を払って配給するようになりました。ホンジュラスやエクアドルがその好例です。

5,000 円で、1 人の子どもに学校給食を 1 年間提供できます。  
(最近の穀物や原油価格の高騰のため、コストは地域・国によって差があります。)

**WFP は世界最大の人道支援機関です。**

2007 年、WFP は 80 カ国で 8,610 万人を対象に食糧支援を行いました。